

Japanese D3 lymph node dissection in low rectal cancer with inferior mesenteric lymph node metastases

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 産形, 麻美子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30822

主論文の要約

Japanese D3 lymph node dissection in low rectal cancer with inferior mesenteric lymph node metastases

(下腸間膜動脈根リンパ節(IMLN)転移を有する下部直腸癌における D3 リンパ節郭清の意義に関する検討)

東京女子医科大学 外科学(第二)教室

(主任：亀岡信悟教授)

産形 麻美子

World Journal of Surgery, Published online 07/May/2014 に掲載

DOI 10.1007/s00268-014-2617-9, ISSN 0364-2313

【目的】現在、大腸癌取り扱い規約において Inferior mesenteric lymph nodes (以下、IMLN) は「下腸間膜動脈起始部より左結腸動脈起始部までの下腸間膜動脈に沿うリンパ節」と規定されており、直腸癌と S 状結腸癌に対して D3 郭清を行う場合に郭清すべきリンパ節とされている。しかし、下部直腸癌におけるその郭清効果や予後解析は不十分であり、R0 切除の意義に関して一定の見解が得られていない。それは IMLN 転移の頻度が少なく、さらに他臓器転移を伴うことが多く治癒切除例が少ないことなどが原因である。今回我々は多数例での検討を行うため全国大腸癌登録情報を用いて、IMLN 転移を有する下部直腸癌におけるリンパ節郭清効果について検討を行った。

【対象および方法】大腸癌研究会全国登録に登録されている下部直腸癌 2743 例を対象とし、1. IMLN 転移例の予後因子、2. IMLN 転移 R0 症例(総リンパ節転移個数 $\geq$ 7 個)の予後を検討した。2 群間の有意差検定は χ^2 乗検定、予後の解析に関しては Kaplan-Meier 法を用いて算出した。その比較は Wilcoxon 法を用いて、 $p < 0.05$ を有意差ありとした。

【結果】IMLN 転移症例は 67 症例 (2.7%) 認められ、IMLN 転移症例の予後因子を単変量解析・多変量解析にて調べたところ、5 年 RFS の壁深達度/ Curability の項目において有意差が確認され、中でも Curability の項目の Hazard ratio が高値であった (HR=2.51)。

IMLN 転移 R0 症例 35 症例の予後は 5 年 RFS=50.8%、5 年 OS=61.9%であり、R1+R2 症例の予後(5 年 RFS=16.1%, 5 年 OS=26.7%)と比し予後は良好であった(RFS : $p=0.0001$, OS : $p=0.0002$)。IMLN 転移 R0 症例は、総リンパ節転移個数が多い傾向にあるが、総リンパ節転移個数 7 個以上の群で予後比較を行ったところ、IMLN 転移 R0 症例の予後(5 年 RFS=53.9%, 5 年 OS=68.8%)は、IMLN(-)症例の予後(5 年 RFS=54.6%, 5 年 OS=57.1%)と比し、予後に明らかな差は認められなかった(RFS: $p=0.9515$, OS: $p=0.4621$)。

【考察】全国大腸癌登録情報でも諸家の報告と同様に、下部直腸癌における IMLN 転移症例は低率であった。下部直腸癌 IMLN 転移例の予後に関して、5 年生存率 0%であり予後は非常に不良と報告している文献も認められたが、今回の検討では IMLN 転移例であっても curative resection がなされれば一定の予後が期待できることが確認された。

直腸癌においてリンパ節転移 5 個以上の症例は有意に予後不良となることを報告している論文が認められ、今回我々は総リンパ節転移個 7 個以上に限定して、IMLN 転移 R0 の症例の予後を IMLN(-)R0 症例の予後と比較検討した。すると IMLN 転移 R0 症例の予後は 5 年 RFS/5 年 OS とともに IMLN(-)症例と有意差を認めなかった。つまり、総リンパ節転移個数 7 個以上であっても curative resection が可能であれば一定の予後が期待できると考えられた。

【結論】下部直腸癌における IMLN 転移例は、総リンパ節転移個数が多い傾向にあるが、curative resection がなされれば、一定の予後が期待できることが確認された。IMLN 転移を有する下部直腸癌において、根治性の得られる D3 リンパ節郭清の意義はあると考えられた。